

将来に向けて戦略的な交流を展開することで、国際的な存在感を高め、県民の利益向上を目指す静岡県の地域外交。今回は、目覚ましい成果をあげている観光に関する交流を紹介する。

観光交流の成果から見えてくる 静岡県の地域外交と未来

地道な外交努力が実を結ぶ

中国・浙江省、モンゴル・トルノゴビ県、韓国・忠清南道をはじめ、台湾、東南アジア、米国などと密接な交流を続けてきた静岡県の地域外交は、経済、教育、文化面で大きな影響をもたらしている。中でも観光面における交流は目に見えた成果を上げており、外国人旅行者が静岡県に宿泊した延べ人数は平成25年から27年の2年間で約55万9千人から173万9千人(観光庁調べ)へ、富士山静岡空港の外国人出入国者数は同2年間で約9万2千人から約

33万7千人(法務省入国管理局調べ)へ増加している。

本県を訪問する外国人旅行者が増えている背景には、富士山静岡空港における中国路線の拡大があり、平成28年7月時点で上海、武漢、寧波、温州、杭州、南京、濟南、瀋陽、大連の9都市に就航している。このような中国路線の拡大は、上海にある海外国路線の拡大と連携した地道な外交努力が実った形だ。

本県は、外国人旅行者にとってゴールデンルートと言われる東京〜大阪間の中央に位置する優位性や富士山をはじめとする本県の魅力を各地の航空会社や旅

行会社などに伝え続けてきた。

本県の地域外交、とりわけ観光関連の交流において、切り札となるのが富士山静岡空港の存在だ。本県は、同空港のターミナルビル増改築を行うとともに、さらなる需要拡大を図るため、ソウル、台北、シンガポールの海外駐在員事務所と連携して、東アジア路線の拡充と未就航の東南アジア路線の実現を目指し、首都圏空港を補完するにふさわしい空港に育てていく。

外国人旅行者に
選ばれる静岡県へ

2019年のラグビー・ワー

きが全国的に広がっているが、4カ所の海外駐在員事務所を軸にトップセールスを展開する本県の取り組みは、その先進例として国内外から注目を集めている。

本県の地域外交を支えているのは「ふじのくに」の総合力だ。観光交流を窓口には、人、モノ、情報、経済などの多方面で交流が進んでいる流れは、自然、歴史、ものづくりなどの多分野で恵まれた資源を持つ本県の「場の力」が原動力になっている。その意

味で、本県の地域外交が高い評価を得ている背景には、オール静岡としての底力がある。

本県は今後もオール静岡体制で地域外交の可能性を拓いていく。防災先進県というメリットを生かして防災協定を結ぶなど、本県の潜在的価値を掘り起こした新たな交流も進んでいる。

県民の利益向上に直結するだけでなく、国家や世界レベルの繁栄や平和につながる静岡県の地域外交。その動向にアジアが、そして世界が注目している。

ターミナルビル増改築予定の
富士山静岡空港。



快適に過ごしてもらうため、空港から県内各地へのアクセス向上、多言語対応、Wi-Fiなどの整備を進めている。

2020年以降も外国人旅行者の数を高いレベルで維持するため、国際拠点空港から静岡県を訪れるツアー商品の開発にも力を注いでいく。さらに、富士山静岡空港利用促進のため、韓国からのゴルフツアー、台湾からのサイクリングツアーなど、よりテーマ性の高い県内滞在型商品を開発していく構えだ。

原動力は「場の力」の総合力

近年、地方自治体において、海外との地域間交流を意識した動



中国の航空会社へのトップセールス。(平成27年8月)



新規就航した中国路線の初便搭乗者への歓迎お出迎え。



台湾の観光展で静岡県の魅力をPR。